

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノレパートリー I Piano repertory I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ピアノ演奏法 I ピアノ演奏法 II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程（幼稚園教諭二種）、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ 中沢充恵 西尾幸子 廣澤真緒実 古屋知恵		講義棟 3階 講義棟 1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
子どもに対する音楽の必要性和影響力はとて大きいものであり、子どもが音楽に親しみ、うたを歌ったり楽器を演奏することの楽しさを味わえるかどうかは、保育者の感性と音楽能力に関わってくる。この授業では、保育現場で必要な基礎的なピアノ技術と伴奏法の習得と幼児曲の歌唱法の習得を図る。特に教育実習(6月)までの授業では、各自が実習先から提示された課題曲について集中的な指導で対応し、それ以降の授業ではピアノ技術と表現力の向上を目指して、幼児曲集を使用した指導と弾き歌いの実践をする。				
授業の目標				
①バイエル終了程度のピアノ技術を用いて幼児曲を演奏することができるようにする。 ②簡単なコードを活用し幼児曲を伴奏することができるようにする。 ③音楽に対する関心を高め、音楽的な表現活動に取り組む姿勢を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
演習（実技）形式で行う。ピアノ技術の習熟度別のクラス編成をし、担当教員による個人レッスンと人の演奏も聞き入れる機会を設けるための歌唱を伴った弾き歌いのグループレッスンを併用して行う。個人レッスンの授業内容は各学生の能力に応じた指導を行うこととし、以下には、標準的な授業計画を示す。				
学習の成果（学習成果）				
①実習先から提示された課題曲と各自が習得した幼児曲の伴奏や弾き歌いを保育現場で実践することができる。 ②楽曲の構成、正確な音程やリズム、速度、強弱を用いたピアノ技術の習得と音楽的に表現することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講上の注意等を説明 担当者別：習熟度チェック、各自の教材の選定と課題			
第2回目	日常のうた弾き歌い①おはようのうた 朝のうた			
第3回目	日常のうた弾き歌い②おべんとう おかえりのうた			
第4回目	実習先の課題曲を用いて① （日常の歌）			
第5回目	実習先の課題曲を用いて② （園歌）			
第6回目	実習先の課題曲を用いて③ （季節の歌）			

第7回目	実習先の課題曲を用いて④（行事の歌）
第8回目	行事のうた弾き歌い①こいのぼり たなばた 教則本の習得①（ブルグミュラー前半程度）
第9回目	行事のうた弾き歌い②ハッピーバースデー お正月 教則本の習得②（ブルグミュラー前半程度）
第10回目	季節のうた弾き歌い①とんぼのめがね めだかのがっこう 教則本の習得③（ブルグミュラー前半程度）
第11回目	季節のうた弾き歌い②やきいもグーチャーパー バスごっこ 教則本の習得④（ブルグミュラー前半程度）
第12回目	教則本の習得⑤（ブルグミュラー前半程度）楽譜の確認と表現
第13回目	教則本の習得⑥（ブルグミュラー前半程度）楽曲の完成
第14回目	グループ発表と講評
第15回目	幼児曲弾き歌い（日常の歌・行事の歌・季節の歌復習）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	毎回、与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。また、授業内でのレッスンによる理解度についても評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	60%	担当教員全員の前で1曲弾き歌いし、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員が全ての学生の演奏を採点し、その平均点を評価とする。
その他	10%	曲の進度による評価をする。

教科書と参考図書

テキスト：幼児のための音楽教育（教育芸術社）、その他（実習先からの課題曲や幼児曲）の楽譜

履修上の留意点・ルール

使用教室（MR I、MR II、レッスン室）では、飲食持ち込み禁止とする。
 毎回、各学生の進度に適した曲が課題となり、次回の授業でその曲の個人レッスンを受ける。
 短い時間でも毎日鍵盤に触れ、将来、保育現場で子どもたちに音楽の楽しさを伝えられるように努力してほしい。